

地小出版  
方版

情報誌

アクセス

毎月1回 1日発行  
購読料 定価 150円  
(本体 136円)  
年間 1,500円(税込み)  
振替 00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町 20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 大河小説「完全版 土地」全20巻をついに完訳！

韓国現代文学における最も優れた作品の一つに数えられ、  
全巻翻訳は世界で初めて。

文・クオン代表 金承福

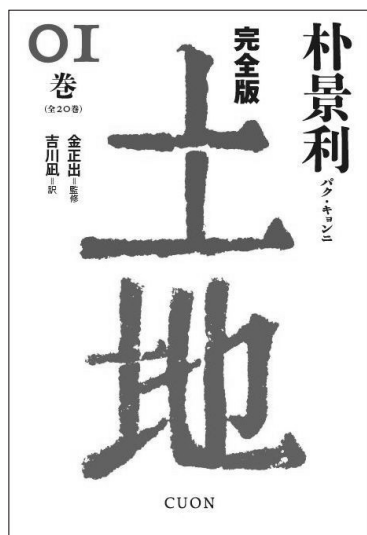
クオンが九十年かけて取り組んできた大河小説『土地』の完訳プロジェクトが、昨年秋の20巻刊行をもって無事完了した。『土地』は、韓国の女性作家の草分け的存在でありデビュー当時から高い評価を受けてきた朴景利の代表作であり、韓国現代文学における最も優れた作品の一つに数えられている。作家が25年間にもわたって書き続けた作品で、原稿用紙1万5千枚超えの大著にもかかわらず韓国でロングセラーとなり、幾度にもわたって映画化、テレビドラマ化されている。また全編をダイジェストした青少年版が2003年に刊行され、2015年には原書に忠実に描いた漫画版も完結した。

＜土地＞を意味することは韓国語でも複数あるが、タイトルが「땅 (土)」でも「大地」でもなく漢字語の「土地」でなければならない理由は、この単語が権利文書を連想させ、「所有」の概念に結びついているからだとして著者はいう。土地が誰かによって所有されたとしたん、人々の間に格差や対立が生まれる。それは地主と小作人の対立にもなり、あるいは国家間の対立にもつながるというわけだ。「土地」という言葉は、人間の持つ原初的な欲望と、それによって引き起こされるさまざまな葛藤を暗示している。

五部構成全20巻の『土地』は、第一部のみながらこれまで英・仏・独・中・露・日など複数言語に訳されてきた。これは『土地』が人間社会の普遍的なテーマを描いた作品として評価されていることを意味する。日本では過去に、第一部の翻訳が1983年から86年にかけて福武書店から出版され、青



著者：朴景利



『完全版 土地』01巻  
発行：2016年11月／税込価格：3,080円  
ISBN978-4-904855-41-6

少年版が2011年に講談社から邦訳刊行されているが、全巻の翻訳は日本のみならず世界で初めてとなる。

### 「土地完訳プロジェクト」を立ち上げるまで

クオンは2007年の設立後、2011年からハン・ガン著『菜食主義者』を皮切りに「新しい韓国の文学」シリ

ーズを始動するなど、韓国文学を中心に翻訳出版してきた。韓国文学の面白さ・豊かさを知ってほしいという想いから、＜韓国文学のショーケース＞になるようにというラインナップを作っていた。2015年に韓国書籍専門の書店チェッコリを神保町に開いたことで、読者と会える機会も増えた。そんな中で知り合ったある方から、「息の長い、骨太な韓国文学はありませんか？」と訊かれたことがある。文学が好きな読者だった。「土地完訳プロジェクト」はこの質問への私なりの答えであったのかもしれない。

私自身が『土地』を読み始めたのは高校時代で、まだ雑誌に連載されていた時だった。延べ600人以上もの登場人物たちがみんなイキイキしているし、不倫など生々しい事件も多いので夢中になって読んでしまう。我が家は母をはじめ上の姉3人がみな『土地』の愛読者だった。4人が読み終えないと順番が回ってこないの、待ちきれず高校の先輩から借りて読んだこともあった。私と同じように『土地』の連載を楽しみにしていた読者で、のちに小説家になったという人も多い。ハン・ガンをはじめ、コン・ジヨン、チョ・ナムジュ、ユン・ソンヒ、ピョン・ヘヨン、ハ・ソンナンなど。彼女たちのエッセイには、『土地』や著者の朴景利のことが書かれている。朴景利は多くの小説家たちに影響を与えたのだ。その意味でも、韓国文学史において実に重要な作品だと言える。

### プロジェクトを始動して

翻訳出版を行うにあたって、まずは

権利を取らなければいけない。作品の管理をしている土地文化財団の理事長(当時)であり、著者の長女でもある金玲珠さんは、私たちからのオファーを快諾してくれた(逆に、ここまで大きなことを手掛けて大丈夫かと気にかけてくれた)。翻訳者の吉川風さん・清水知佐子さんと編集の藤井久子さんは、作品世界がより良く理解できるように『土地』にまつわる地を実際に訪れる旅にも出かけた。装幀はクオンの本を長年デザインしてくださった桂川潤さんが引き受けてくれた。

準備段階でたびたび聞かれたのが、『土地』は反日小説ではないのかという声だった。プロジェクトを立ち上げた2014年頃は日韓関係が過去最悪と言われていた頃でもある。嫌韓本と称される本も多数刊行されていた。それに対して韓国文学が書店の棚で締める割合はごくわずかで、1冊もないことだって少なくなかった。クオンを支えてくれた人たちからも、「これからたくさんの本を紹介していくのに「反日小説」を出すのはデメリットにしかないのでは」と心配の声も聞かれた。

でも私は『土地』が反日小説だとは思えなかった。小説に描かれている時代が1897年から1945年8月15日までなので、おのずと日本による植民地支配という背景があり、そのことに対する人々の想いははっきりとしている。けれども、だからといって反日小説という捉え方はできないと思う。金玲珠理事長から『土地』学会会長で延世大学教授のチェ・ユチャンさんを紹介していただき、翻訳者のお二人がインタビューを行った。その場で教授ははっきりと述べられた。

「登場人物が日本を批判しているからといって、『土地』という作品全体を反日論とみなしてしまうのでは、この作品をちゃんと理解してとは言えません。『土地』が示唆しているのは、東学<sup>1)</sup>の思想などにも関連することですが、すべての生命を尊重して生きるということです。(中略)『土地』の背後にあるのは生命に対する畏敬の念であり、その土台の上に、それぞれの人物の人生が描かれているのです。怒りや恨みは自分の中で鎮め、天の教えに従って生きろ。これが『土地』の核心

となるメッセージだと言えます。決して、恨んだり復讐したりすることを促しているではありません」

心配してくださった方々もこのインタビューを読んで納得され、のちに始めた全巻予約などの形で私たちを応援してくれた。

### 『土地』の世界を広く伝える

翻訳者二人が基本的に交互に担当するかたちで翻訳がスタートし、2016年に1巻と2巻を同時刊行した。刊行を記念して、著者の故郷である韓国の統営を訪れるツアーを企画した。参加者のなかには生前の著者にインタビューしたことのある文芸評論家の川村湊さんもおられ、著者とのエピソードを涙ながらに語ってくれた。ツアーのハイライトとして、刊行したばかりの本を携えて著者の墓前で完訳プロジェクト始動の報告をした。実は契約をした直後にも一度訪れて「今度は読者と一緒に来ます」と誓っていたのだが、それが実現できたことも嬉しかった。

韓国での刊行記念会に引き続き、東京でも韓国文化院で記念会を行った。韓国から金玲珠理事長も来日され、スピーチをしてくださった。俳優の松岡みどりさんに『土地』1巻冒頭の朗読をお願いしたところ、その朗読を聴いて「面白そう」と全巻予約してくれた人もいた。

3巻以降も年に2冊ほどのペースで刊行していった。実は読者から「続きはいつ出るんですか?」「もっと早く出してくれませんか」という電話の問い合わせがたびたびあったのだが、1冊のページ数が多いえ方言も多用されていたり(韓国語のネイティブでも難儀することがある。翻訳版ではそうならないよう、あえて方言のような訳し方はしなかった)、舞台が韓国だけでなく中国・日本にもまたがっていたりして、おのずと調べ物も多くなる。翻訳者だってほかの仕事もある。無理して急がず良いものにしよう、このペースになった。途中、桂川さんが急逝されたことは本当に残念なことだったが、桂川さんがあらかじめ全

20巻のイメージを残してくださったおかげでDTPの方が桂川さんのあとを引き継いでくれた。

### 『土地』完訳プロジェクトを完遂して

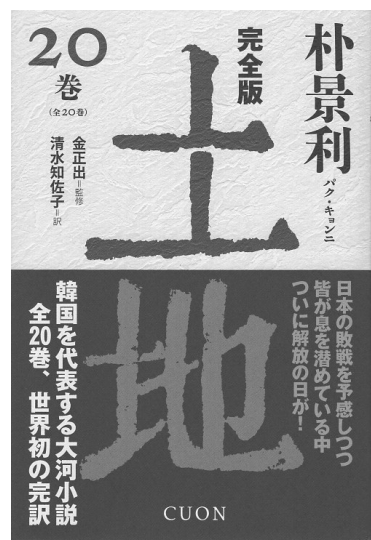
最終巻の翻訳刊行が間近となった2024年秋、韓国から二つの賞をいただいた。ひとつは韓国文学館の理事長からの感謝状、そしてもう一つは世宗文化賞国際交流部門(大統領賞)で、どちらも『土地』の完訳が高く評価されてのことだった。授賞式に参加された清水さんへのインタビューも現地メ



統営の海を遠望できる墓前で、日本から訪れた読者たちと一緒に完訳の報告を行った(写真:山岡幹郎)

ディアから行われ、関心の高さがうかがわれた。

また、英語圏にむけて韓国文学の魅力を伝え続けている韓英翻訳者で、ブッカー国際賞の審査員も務めているAnton Hurさんが『土地』の完訳を喜んでくれたことも、仲間からの励まし



『完全版 土地』20巻  
発行: 2024年10月/税込価格: 3,080円  
ISBN978-4-904855-60-7

としてとても嬉しかった。いつの日か英語でも全巻読める日が来るのではないかと、期待し、楽しみにしている。

プロジェクトが完遂した今、すべて出せたという喜びよりも、翻訳者、編集者、校正者、デザイナー、DTPや印刷現場の方たちへの感謝の気持ちの方が大きい。この場を借りて改めてお礼をお伝えしたい。

朴景利は生前、一つの作品をなぜそんなにも長く書き続けることができるのかとたびたびインタビューで訊かれていた。そのたびに、ただ書いているだけだと何事もなく答えているのが、

正直私にはよく理解できていなかった。いま自分自身のことを振り返ってみると——大作家の朴景利と私を重ね合わせるとおこがましいのだが——私は20年近く日本で韓国文学を紹介してきた。ただただ好きだから、いい作品を紹介したいからやってきたのだが、続けてきたからこそできたことも少なくないと思う。一つのことをひたすらやることで生まれる道を、『土地』の完訳プロジェクトからも教えられたように思う。

多くの人を魅了する『土地』には、究極の愛、富を蓄積する方法、国を救

う方法、自由に生きる方法、知識を積む方法などが物語の中に織り交ぜられている。人生を生きていくに必要な良いものだらけ。まず1巻を手にする瞬間から、良いものはあなたのものになる。

注1) 東学：19世紀の半ばに教祖・崔濟愚が、民間信仰に儒教、仏教、道教などの要素を採り入れて創始した民族的宗教

\*

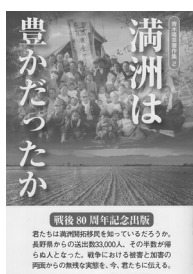
(キム・スンボク／クオン代表)



## 新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

### 『満洲は豊かだったか』●青木隆幸 著

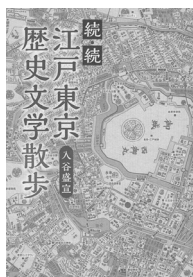


1931年の満洲事変で中国東北部を占領したわが国は農業移民政策を推進し、1945年までに27万人を送り込んだ。なかでも長野県は3万3千人と突出している。移民はソ連国境に近い100程の開拓団に配された。開拓といながら、ソ連の侵攻を防ぐ役割を期待され、家と畑は現地人から収用したものであった。暮らしは辛酸を極め、多くの戦死者、病死、特に敗戦時には悲惨な集団自決と残留婦人・孤児を生み、半数は二度と故郷の土を踏むことができなかった。長野県立歴史館員であった著者は、戦後67年目の2012年に、全国に先駆けて満洲移民展を企画する。長野県にとって満洲移民は大きなタブーであり、障害も少なくなかった。過度に心情に訴えるのではなく、3万3千人の重みを客観的に感じてもらおうと、氏名、出身

市町村、開拓団名、性別、年齢、消息（生死、帰還、未帰還）をデータ化し、全てを書き出して展示する異例な形になった。一人ひとりの生きた証を示したもので、大きな反響を呼んだ。データからは、例えば、現下伊那郡豊丘村の女性帰還率28%という現実が浮かび上がる。膨大な数の犠牲者が日本近代史の中で持つ意味は何か、そもそも満洲移民は必要だったのか。新しい世代に向けて問いかけ、戦争の愚かさを繰り返し訴える。満洲体験は、もはや人も物も眼前から消えつつあるが、データは体験を語り継ぐ場としてこれからも有効である。ほかに、飯田出身の博物学者田中芳男についてなどの地域史論考数編を収める。(飯澤文夫)

◆2400円・A5判・365頁・龍風書房・長野・202501刊・ISBN9784947697868

### 『続・続 江戸東京歴史文学散歩』●入谷盛宣 著



江戸、東京、歴史、文学といった言葉冠した散歩本は、ネット検索すれば類書が山ほど見つかるジャンルだ。そんな中で本書固有の価値はどこにあるのか、少々意地悪な眼で読み始めた。ところがどっこい、実にユニークな本だった。まず、気がついたのは、携えて街を歩くことを前提に制作されていること。サイズは読みやすいけれど大きすぎないA5版で、路上で開く際に邪魔な表紙カバーがない。章によってはページの途中から始まる箇所があり、不思議に思ったが、少しでもページ数を減らして、コスト削減と同時に軽量化を図る工夫なのではないかと思う。散歩に必要な不可欠な地図は一つのコースについて最大5つに分けて掲載され、読者は迷わずにコースを踏破できるであろう。文章も面白い。「ぺんぷらざ」という同人誌に連

載された作品が元になっているようで、元が同人誌ゆえ村度なしに、書かれた記述が随所であり、類書とは一線を画している。

コース設定もいい。行政区画を超えるコースもあるが、これは近年増加している自治体が無償配布する小冊子では不可能なコース設定なのだ。そして各コースを精査すると、著者がコースを何度も踏査し、参考資料を詳細に調べ、歩いて見つけた新しい情報も盛り込んでいることがわかる。例えば評者にとって馴染のある「池袋の周辺」について見ると初めて知る事実が数多くあり、著者の調査能力に舌を巻いた。一見地味だが、よく考えて作られている良書だ。

(石井一彦)

◆1500円・A5判・134頁・高遠書房・長野・202504刊・ISBN9784925026581



## 『猫マッチラベル図録』●加藤豊 著



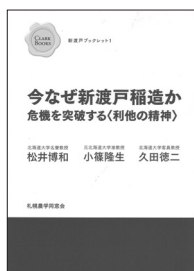
火は人間の生活に必要な不可欠なものだが、火打石など昔の発火法は手間がかかった。1827（文政10）年にイギリスの薬剤師ウォーカーが「摩擦マッチ」を考案。火の点火が悪い、自然発火するといった欠点が改良され、1855（安政2）年、スウェーデンのジョワンによって今のような小箱の形の安全マッチが発明された。日本では1875（明治8）年に旧金沢藩士でフランスに留学して化学などを学んだ清水誠によって初めて製造され、会社も設立。日本はスウェーデン、アメリカと並んで世界三大マッチ生産国となった。日本で初めて猫柄商標登録マッチラベルが誕生したのは1887（明治20）年。以降、猫をモチーフにした商標登録マッチラベルは77件に及ぶ。

本書はこの明治・大正の商標登録マッチ、昭和

和の広告マッチ、ブックマッチ、さらに日本のみならず世界の猫マッチラベル、作品として作られたアーティストのオリジナル猫マッチラベルまで余すところなく約2000点を収録。著者の加藤豊はマッチラベルコレクター、板東寛司は猫専門カメラマン（キャットグラファー）として活躍中。二人のタッグが猫好き、アート好き、レトロ好きにはたまらない図録を生み出した。2025年は国産マッチ創業150年、昭和100年に当たり、記念出版でもある。1975（昭和50）年に使い捨てライターが登場、家庭内ではガスコンロ等の自動着火装置の普及によりマッチの生産量は激減してしまっただが、猫たちの小さな世界は永遠に火をともし続ける。（Y）

◆2700円・A5判・240頁・風呂猫・東京・202502刊・ISBN9784904732908

## 『今なぜ新渡戸稲造かー危機を突破する〈利他の精神〉』●松井博和ほか 著



高い技術や知識を獲得し、その知財を社会に還元していくべき大学人の倫理観が揺らいでいる、と本書の著者の一人はいう。新渡戸稲造はかつて「知識思想は天より預かりしものなれば、一人一家の秘蔵すべきものではない。あまねく世界に提供すべきもの」と言った。公の利益のために自分にできることを進んで行うという倫理は今も変わらず重要である、と。本書は新渡戸の生涯を辿るとともに、このような新渡戸の理念を継承する一般社団法人新渡戸稲造遠友リビングラボのことを紹介している。ラボは、札幌農学校同窓会（北海道大学同窓会）のメンバーが運営に携わり、その活動拠点となるべきNELL（Nitobe Enyu Living Lab.）を、かつて新渡戸が開いた夜間の私立学校「札幌遠友夜学校」跡地に建設し、新たなまちづくりの核と

して活用するための運動「NELL」プロジェクトを展開中である。

新渡戸の札幌遠友夜学校は貧しい子どもなどに無料で教育を施し、北大の学生たちが無償で教師を務めた。教室の外でも教師と生徒、性別、職業、年齢の垣根なく交流する機会が用意された。これを原形とし、NELLは、北海道大学、札幌市、地域住民と企業等が、課題解決や人材育成のために参画するが、誰もが自由に出入りし、教える立場と教えられる立場の上下関係がないフラットな空間づくりを目指すことされる。知財を活用し、その地に固有な教育の伝統を範例としてまちづくりに生かしていくという構想には大きな可能性を感じる。（N）

◆1000円・A5判・62頁・寿郎社・北海道・202503刊・ISBN9784909281678

## 『京都の風呂屋を歩く』●松本康治 著



日本全国の趣のある銭湯や個性的な銭湯、そしてその街の雰囲気さえも伝えてくれる『旅先銭湯』。今回の舞台は京都です。さすが古都京都というべきか、なんと創業100年を超える銭湯も存在しています。そのひとつ長者湯は唐破風の玄関から男湯と女湯が分かれている昔ながらの店構え。脱衣場には清水寺と金閣寺のタイル絵があり、荷物を入れる柳行李ごとロッカーにしようという伝統的京都スタイルの銭湯です。しかしそんな長者湯も時代の流れに逆らえず試行錯誤を繰り返しています。やはり他の街と変わらず京都でも次第に銭湯はその数を減らしてきていたのです。

しかし根強い銭湯ファンもいます。京大や立命館大の銭湯サークルの人たちが銭湯の掃除などのサポートに入ったり、銭湯の経営を買って

出る、ゆとなみ社という会社が経営を引き継いだりもしています。ゆとなみ社が経営するサウナの梅湯は、レトロな雰囲気に店の若者の感性が入り混じり独特な空気が漂います。もちろんそれ以外にも、昔から地元の人々が足を運び続ける銭湯も多士済々。オリジナル清水焼作品が溢れる創業131年の京都玉の湯、インコがいっぱいの松葉湯、独創的な意匠で埋め尽くされた桂湯などの個性派銭湯から、伝統的スタイルの銭湯まで様々な銭湯が紹介されています。そして銭湯周辺の「うまいもん」紹介も相変わらずの充実ぶり。紙面で楽しむもよし、実際に行くもよし、早くも第2集が楽しみな京都湯めぐりです。（副隊長）

◆1600円・A5判・135頁・さいろ社・兵庫・202503刊・ISBN9784916052803

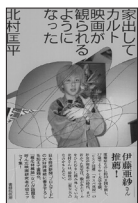
# 売行良好書

期間：2025年3月15日～4月14日

※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

## 【出荷センター扱い】

(1)『家出してカルト映画が観られるようになった』1700円・書肆侃侃房 (2)『情報の歴史21増補版』6800円・編集工学研究所 (3)『少年が来る』2500円・クオン (4)『酒を主食とする人々』1800円・本の雑誌社 (5)『ウミガメ博物学』1800円・南方新社 (6)『菜食主義者』2200円・クオン (7)『幸せについて』1000円・ナナロク社 (8)『徴兵体験 百人百話』1500円・17出版 (9)『眼述記』1750円・忘羊社 (10)『天才による凡人のための短歌教室』1200円・ナナロク社 (11)『カラー化写真で見る沖縄』2000円・ボーダーインク (12)『水俣病にたいする企業の責任 <増補・新装版>』3500円・石風社 (13)『たぶの里』1200円・ナナロク社 (14)『水俣物語』3000円・弦書房



## 【ジュンク堂書店池袋店 地方出版社の本—センター扱い図書】

(1)『カラー化写真で見る沖縄』2000円・ボーダーインク (2)『水上バス浅草行き』1700円・ナナロク社 (3)『老人ホームで死ぬほどモテたい』1700円・書肆侃侃房 (4)『北海道の銭湯』1700円・さいろ社 (5)『新版 奥多摩登山詳細図 西編』900円・吉備人出版 (6)『眼述記』1750円・忘羊社 (7)『山梨東部の山登山詳細図 (東編) 権現山 扇山 倉岳山 高柄山』900円・吉備人出版 (8)『たやすみなさい』2000円・書肆侃侃房 (9)『核心<水俣病>事件史』2500円・石風社 (10)『新装版 奥武蔵登山詳細図 全130コース』900円・吉備人出版 (11)『新版改訂 高尾山登山詳細図 全132コース』1200円・吉備人出版 (12)『地方創生 失われた十年とこれから』1800円・秋田魁新報社 (13)『九州異世界遺産』2000円・海鳥社 (14)『水俣病にたいする企業の責任 増補新装版』3500円・石風社 (15)『ウミガメ博物学』1800円・南方新社 (16)『古墳は語る 古代出雲誕生』1500円・ハーベスト出版 (17)『新沖縄文学96』2000円・沖縄タイムス社



以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。  
URL : <http://neil.chips.jp/chihosho/> X (旧ツイッター) 公式アカウント : @local\_small

## トピックス — ★★★

▼大手取次のトーハンが昨年10月に始めた少額取引取次サービス『HONYAL』(ホンヤル)を活用して、前号で紹介した立川市の妖精書専門店「狐弾亭」に続き、二子玉川にアート系書店の「Sprout Books and Art」がオープンしたそうです。またこの4月には4店目の事例となる「本と花のあるお店・本屋すみれ」が静岡県掛川市にオープンしたとのこと。因みにHONYAL最初の導入事例は、北海道・南幌町の町立子ども室内遊戯施設「はれっば」館内の「はれっばえほん館」で、南幌町は「はれっばえほん館」のオープンにより、「無書店自治体」から脱却したとされています。

▼HONYALは書籍の注文のみに対応し、仕入額は月100万円まで、返品は仕入額の15%以内、配送は週1回、開業時の連帯保証人や保証金を不要とするなど流通フローを簡略化して少額取引に特化した取次サービスですが、ニュースリリースによれば、トーハンでは「さらに手軽に書店を始められる」とうたった「HONYAL Lite版」を開始したとのこと。仕入額が月5万～30万、返品不可の買切という条件で、すでにインドカレー店「カレーen」(東京都世田谷区)の店内にて、HONYAL Lite版を利用した本屋がオープンしたと伝えられています。  
(<https://honyal.jp/event/release002>)

▼こちらは当方では扱いませんが、4月下旬に大洋図書から刊行される【廃墟マニアックス! 廃愛本】(ISBN978-4-8130-7632-2 本体価格2,200円)に当方取引先のHEYANEKO主催・浅原昭生氏が執筆陣の一人として参画されています。「不要、無用、無益。人々に捨てられ、時を止めた世界。過去を歩き続け、記憶を伝承する「廃愛人」たちが生んだ奇書!。因みに浅原氏は廃村探訪において全都道府県を制覇したという業績(?)の持ち主。HEYANEKO刊の【廃村と過疎の風景】は1～11巻のうち3巻が品切れです。

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

## ジュンク堂書店

淳久堂書店

## 池袋本店

営業時間：午前10時～午後10時

池袋でああなたのふるさとに帰ってみませんか？

2階「ふるさとの棚」では、  
地方小出版流通センター扱いのご当地本を幅広く取り揃え、  
皆様のお越しをお待ちしております。

〒171-0022  
東京都豊島区南池袋 2-15-5  
TEL 03-5956-6111  
<http://www.junkudo.co.jp>

